

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2016年2月19日（当初設定日）から無期限です。	
運用方針	世界主要市場のバイオ医薬品関連企業の株式に投資することにより、信託財産の積極的な成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券
	マザーファンド	世界のバイオ医薬品関連企業の株式
運用方法	①主として、マザーファンド受益証券に投資します。 ②実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主な投資制限	当ファンド	①株式への実質投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	①株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	



PICTET

iTrustバイオ

運用報告書(全体版)

第9期

決算日：2025年4月14日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「iTrustバイオ」は、2025年4月14日に第9期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			参考指数		株式組入比率	純資産額
		税込み 分配	み 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率		
	円	円		%		%	%	百万円
5期(2021年4月13日)	14,608	0		24.4	20,115	51.5	99.2	474
6期(2022年4月13日)	16,462	0		12.7	23,811	18.4	99.2	757
7期(2023年4月13日)	18,137	0		10.2	24,272	1.9	98.2	912
8期(2024年4月15日)	19,231	0		6.0	34,021	40.2	99.4	936
9期(2025年4月14日)	17,286	0		△10.1	33,358	△1.9	98.0	851

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 参考指数は、MSCI世界株価指数(税引後配当込み)を委託者が円換算し、設定日(2016年2月19日)を10,000として指数化したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数	株式組入比率	
	騰落率	騰落率		騰落率	騰落率
(期首) 2024年4月15日	円	%		%	%
4月末	19,231	—	34,021	—	99.4
5月末	19,794	2.9	34,770	2.2	99.0
6月末	20,557	6.9	35,577	4.6	98.5
7月末	22,238	15.6	37,682	10.8	98.6
8月末	22,175	15.3	35,609	4.7	98.7
9月末	21,320	10.9	35,002	2.9	98.9
10月末	20,160	4.8	35,452	4.2	98.7
11月末	21,543	12.0	37,973	11.6	98.6
12月末	21,047	9.4	38,134	12.1	98.4
2025年1月末	20,827	8.3	39,689	16.7	98.5
2月末	21,381	11.2	39,784	16.9	97.0
3月末	20,573	7.0	37,731	10.9	98.7
(期末) 2025年4月14日	19,873	3.3	36,438	7.1	98.7
	17,286	△10.1	33,358	△1.9	98.0

(注) 騰落率は期首比です。

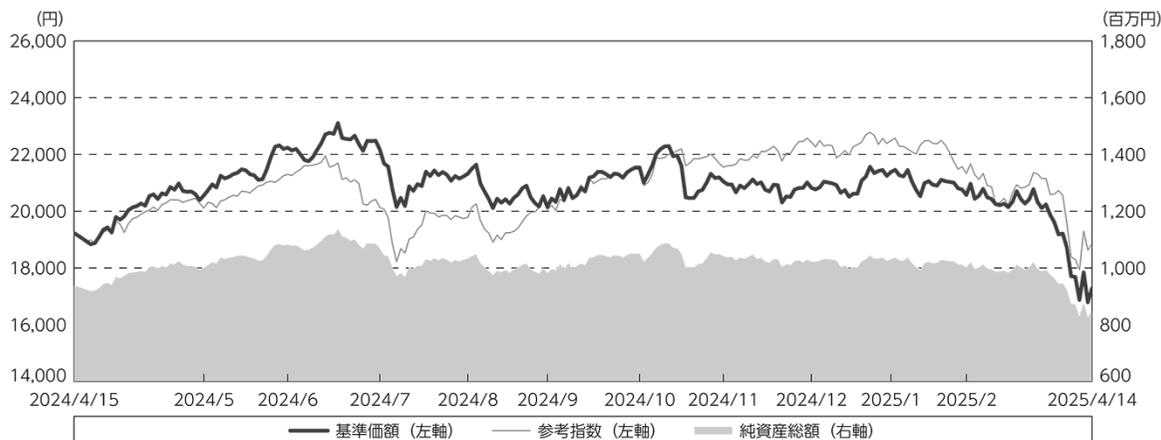
(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 参考指数は、MSCI世界株価指数(税引後配当込み)を委託者が円換算し、設定日(2016年2月19日)を10,000として指数化したものです。

MSCI世界株価指数は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、10.1%の下落となりました。



期首：19,231円

期末：17,286円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 10.1%

(注) 参考指数は、期首(2024年4月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 参考指数は、MSCI世界株価指数(税引後配当込み)を委託者が円換算したものです。

◇主な変動要因

【当期前半】

上昇↑・実質的に組み入れているギリアド・サイエンシズ(米国、バイオテクノロジー)やアムジェン(米国、バイオテクノロジー)などのバイオ医薬品関連企業の株価が上昇したこと

下落↓・円に対して米ドルが下落したこと

【当期後半】

下落↓・実質的に組み入れているリジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国、バイオテクノロジー)、モデルナ(米国、バイオテクノロジー)、バイオジェン(米国、バイオテクノロジー)などのバイオ医薬品関連企業の株価が下落したこと

下落↓・円に対して米ドルが下落したこと

- ・ バイオ医薬品関連株式市場は、期初から2024年5月末にかけては、主要中央銀行の利下げ観測が強まったことで米国などで長期金利が低下し、金利感応度が相対的に高い当該市場は堅調に推移しました。6月上旬から7月前半にかけては、米国の消費者物価指数（CPI）の伸びが鈍化し米連邦準備制度理事会（FRB）が早期に利下げを開始するとの見方が強まったことや、半導体・AI（人工知能）の発展拡大および企業業績の改善期待などを背景に世界の株式市場が堅調に推移する中で上昇しました。7月後半から8月前半にかけては、米政府による中国向け半導体輸出の規制強化、中国や欧州を中心に世界景気悪化の懸念が強まったことなどから大幅に下落しました。8月後半から9月中旬にかけては、FRBが事前予想より大幅な利下げを実施したことで景気に対する過度な懸念が後退したことなどから上昇しました。その後は、堅調な米経済指標を背景に景気減速懸念が後退したことがプラス要因となった一方、米国長期金利が上昇したことがマイナス要因としてより強く意識されたため、軟調に推移しました。2025年1月半ばにかけては、米国長期金利の上昇や、米国のトランプ次期政権下での薬価引き下げ圧力見通しなどが嫌気され、軟調に推移しました。1月後半から2月上旬にかけては、バイオ医薬品関連企業をターゲットとしたM&A（合併・買収）の増加期待や米国長期金利の低下などから反発しました。ただ、2月中旬以降は、トランプ米政権の通商政策の不透明感や、それに伴う対外関係の悪化、米国の景気減速への懸念などから、再度下落基調に転じました。さらに3月末から期末にかけては、トランプ米政権による医薬品への関税賦課に対する懸念が強まったことや、事前想定以上に厳しい相互関税の内容などから、世界経済に対する大打撃は不可避との見方が広がったことで、一段と大きく下落しました。一方で、相互関税の延期などを背景に急反発する場面もあるなど値動きの荒い展開となりました。
- ・ 為替市場は、期初から2024年7月上旬にかけては、日本銀行が6月の金融政策決定会合において国債買い入れ減額の具体策の決定を先延ばししたことで利上げ観測が後退し、日米金利差がすぐには縮小しないとの見方が強まったことなどから円安・米ドル高が進行しました。7月中旬から9月前半にかけては、米労働市場の減速懸念を背景にFRBの利下げ観測が強まったことなどから急速に円高・米ドル安が進行しました。その後はFRBが9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で事前予想より大幅な利下げを実施したものの、今後の大幅利下げの継続には消極的な姿勢を示したことや堅調な米経済指標などを受けて、円安・米ドル高が進みました。11月中旬にかけては、米国大統領選挙で関税強化などを主張するトランプ氏が当選し、米国のインフレに対する懸念が強まったこと、日本の政局不透明感から日本銀行が利上げに慎重になるとの見方が強まったことなどから、円安・米ドル高が進行しました。その後11月下旬には、FRBが利下げの継続方針を示したことや、日本銀行の追加利上げ観測などから一時円高・米ドル安となりましたが、12月上旬から2025年1月上旬にかけては、米国の堅調な経済指標やFRBの追加利下げペースの後退観測、日本銀行の追加利上げの後退観測などを背景に円安・米ドル高が進行しました。1月中旬以降は、日本銀行の利上げ決定に加えて、利上げ継続の見通しが強まったことや、米国の長期金利低下などを背景に、円高・米ドル安が進行しました。さらに2月半ば以降は、米通商政策の不透明感から市場のリスク選好が後退する中で円高・米ドル安傾向が続き、さらに期末にかけてはトランプ米政権が打ち出した相互関税が想定以上に厳しい内容であったことで、世界経済への大打撃は不可避との見方が強まり、リスク回避の動きが急速に強まったことで一段と円高・米ドル安が進みました。

組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。実質的な外貨建資産につきましては原則として為替ヘッジを行いませんでした。

<マザーファンドの組入状況>

主に世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいりました。期末におけるESG（環境・社会・ガバナンス）を主要な要素として選定した銘柄の組入比率は、76.4%となりました。

当社および運用指図の権限の委託先におけるESGに関わる活動の詳細につきましては以下のリンク先をご覧ください。

<https://www.pictet.co.jp/featured/esg-portal.html>

◇国・地域別組入比率

【期首】

国・地域名	組入比率
米国	88.1%
英国	4.1%
フランス	3.3%
デンマーク	1.4%
中国	0.9%
スペイン	0.9%
スイス	0.7%
ドイツ	0.6%



【期末】

国・地域名	組入比率
米国	83.2%
英国	5.2%
フランス	3.7%
デンマーク	1.8%
中国	1.8%
オランダ	1.1%
スイス	1.0%
ドイツ	0.5%
スペイン	0.3%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇業種別組入比率

【期首】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	78.9%
医薬品	14.7%
ライフサイエンス関連	5.6%
ヘルスケア・サービス	0.7%



【期末】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	76.4%
医薬品	17.9%
ライフサイエンス関連	2.6%
ヘルスケア・サービス	1.7%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
パーテックス・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	8.7%
リジェネロン・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	8.5%
ギリアド・ サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	7.5%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	7.4%
バイオジェン	米国	バイオテクノロジー	4.3%
モデルナ	米国	バイオテクノロジー	4.3%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	3.8%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	3.3%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.2%
イルミナ	米国	ライフサイエンス関連	2.6%

【期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
パーテックス・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	8.7%
ギリアド・ サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	8.6%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	8.2%
リジェネロン・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	6.5%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	4.7%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	3.7%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.5%
アルナイラム・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	3.0%
ヴィアトリス	米国	医薬品	2.4%
ジャズ・ ファーマシューティカルズ	米国	医薬品	2.2%

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

期末の組入上位銘柄は、

- パーテックス・
ファーマシューティカルズ : 治療法の限られた、または治療法のない疾患に向けた治療薬の発見・開発および商品化に注力。嚢胞性線維症治療薬のバイオニア。
2012年に米食品医薬品局 (FDA) から承認を受けたカリデコ以降、オルカンビ、シムデコ、トリカフタといった嚢胞性線維症 (CF) 治療薬を次々と上市することで、CF患者の生活の質を大きく改善し、更に治療や通院にかかる費用の削減にも貢献。このような革新的技術を有することで、同社は数十億ドル規模のCF市場で存在感を示し、利益を獲得している。
- ギリアド・サイエンシズ : HIVやC型肝炎など感染症治療薬の分野に強みを持つ。
エイズ/HIV感染者の治療のバイオニアであり、患者が通常の生活を送れるレベルまで病気を抑制する治療薬を提供するだけでなく、感染しないための予防薬も提供。また、途上国などに向けて安価な治療薬も提供している。エイズ/HIV感染者治療におけるリーダーシップにより、患者や医師から多くの信頼を獲得している。
- アムジェン : 関節リウマチ、骨粗しょう症の治療薬や白血球生成促進剤などが主力のバイオ医薬品企業。バイオシミラー (バイオ後続品) にも取り組む。
がん、骨粗しょう症、腎臓病、炎症など様々な疾患をターゲットとした医薬品の強力なポートフォリオを有しており、人々の健康で長生きする生活に貢献している。また経験豊富で大規模な研究開発チームを持ち、他のバイオテクノロジー企業や学術機関、政府機関との良好なパートナーシップを確立してい

る。強力な医薬品ポートフォリオ、最高の研究開発能力、強力な製造およびサプライチェーン能力、そして確立されたブランドが、同社の成長維持に貢献している。

- リジェネロン・ファーマシューティカルズ : がん、眼病や慢性炎症などの治療薬の研究開発、商品化などを手掛けるバイオ医薬品メーカー。
複数の疾患領域で治療に変革をもたらした非常に革新的な企業で、特に治療しなければ失明に至る可能性のある加齢黄斑変性症（AMD）の治療で大きな役割を果たしている。また、有効性の高い皮膚疾患の治療薬を有し、がん領域でも非常に有望なパイプライン（治療薬候補）の開発に取り組んでいる。同社の革新性の高さが、画期的な治療薬を生み出し、大きな市場の獲得につながることを繰り返し示してきた。
- アストラゼネカ（ADR） : がん、循環器・代謝疾患、呼吸器・炎症・自己免疫疾患などを中心に幅広い分野において医療用医薬品の創薬、開発、製造および販売を行う製薬会社大手。様々な治療領域に注力し多くの治療薬を提供し、人々の健康で長生きする生活に貢献。多くの治療薬を有しており特許失効のリスクプロファイルが穏やかで、さらにはがん領域で高い将来性が期待されるパイプライン（治療薬候補）を有していることから、今後も二桁の利益成長の継続が期待される優良なディフェンシブ銘柄といえる。

などとなりました。

収益分配金

当期の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、見送りとさせていただきます。

なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第9期
	2024年4月16日～ 2025年4月14日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	7,285

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(1) 投資環境

バイオ医薬品関連企業は、画期的な治療薬を提供し続けるものと予想され、相対的に高い利益成長が期待されます。また魅力的な新薬候補や高い技術力を求めて大手医薬品企業がバイオ医薬品関連企業を買収する動きは継続すると見られ、これは株価にとってプラス要因になると見えています。今後、薬価引き下げの動き、注目パイプラインの治験結果の発表、決算の内容、米国金利の動向などが株価に影響を与える可能性があり、注視が必要と考えます。

(2) 投資方針

ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド受益証券への投資を通じて世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

<マザーファンド>

世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年 4 月16日～2025年 4 月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	207	0.987	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(131)	(0.625)	・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販 売 会 社)	(69)	(0.329)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受 託 会 社)	(7)	(0.033)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.005	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株 式)	(1)	(0.005)	・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.005	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株 式)	(1)	(0.005)	・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	16	0.078	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(4)	(0.018)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(11)	(0.055)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.006)	・その他は、信託事務の処理等に要する諸費用
合 計	225	1.075	
期中の平均基準価額は、20,957円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

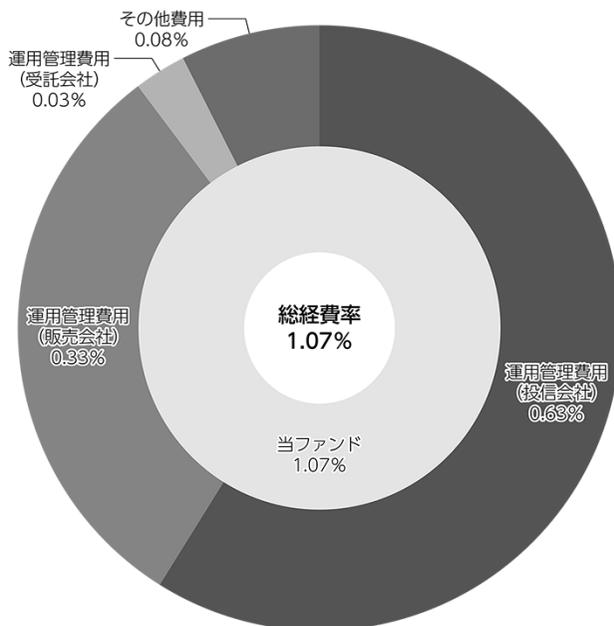
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.07%です。



(注) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年4月16日～2025年4月14日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド	14,359 千口	147,900 千円	14,621 千口	151,270 千円

(注) 単位未満は切り捨てています。

○株式売買比率

(2024年4月16日～2025年4月14日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	189,880,269千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	185,670,506千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.02

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2024年4月16日～2025年4月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2024年4月16日～2025年4月14日)

該当事項はございません。

○特定資産の価格等の調査

(2024年4月16日～2025年4月14日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年4月14日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド		98,372	98,111	847,113

(注) 単位未満は切り捨てています。

○投資信託財産の構成

(2025年4月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド	847,113	98.5
コール・ローン等、その他	12,867	1.5
投資信託財産総額	859,980	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) ピクテ・バイオ医薬品マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(126,271,875千円)の投資信託財産総額(126,963,067千円)に対する比率は99.5%です。

(注) ピクテ・バイオ医薬品マザーファンドにおける外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=143.23円、1香港ドル=18.46円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年4月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	859,980,516
コール・ローン等	11,707,386
ビクテ・バイオ医薬品マザーファンド(評価額)	847,113,018
未収入金	1,160,000
未収利息	112
(B) 負債	8,205,232
未払解約金	2,060,365
未払信託報酬	5,868,300
その他未払費用	276,567
(C) 純資産総額(A-B)	851,775,284
元本	492,755,906
次期繰越損益金	359,019,378
(D) 受益権総口数	492,755,906口
1万口当たり基準価額(C/D)	17,286円

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>
(貸借対照表関係)

(注) 期首元本額	486,746,327円
期中追加設定元本額	133,275,027円
期中一部解約元本額	127,265,448円
(注) 1口当たり純資産額	1.7286円

○損益の状況 (2024年4月16日～2025年4月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	7,510
受取利息	7,510
(B) 有価証券売買損益	△100,894,691
売買益	13,377,605
売買損	△114,272,296
(C) 信託報酬等	△13,904,754
(D) 当期損益金(A+B+C)	△114,791,935
(E) 前期繰越損益金	98,408,484
(F) 追加信託差損益金	375,402,829
(配当等相当額)	(181,501,289)
(売買損益相当額)	(193,901,540)
(G) 計(D+E+F)	359,019,378
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	359,019,378
追加信託差損益金	375,402,829
(配当等相当額)	(181,628,309)
(売買損益相当額)	(193,774,520)
分配準備積立金	98,408,484
繰越損益金	△114,791,935

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(260,610,894円)および分配準備積立金(98,408,484円)より分配対象収益は359,019,378円(10,000口当たり7,285円)ですが、当期に分配した金額はありません。

(注) 主要投資対象であるマザーファンド受益証券において、信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用
当該費用は、ファンドに係る信託報酬のうち委託者が受ける報酬から支弁しております。

○お知らせ

- ・信託報酬率を引き下げるため所要の約款変更を行いました。
- ・投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に対応するため運用報告書の記載箇所において所要の約款変更を行いました。

ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド

運用状況のご報告

第25期（決算日：2025年4月14日）
（計算期間：2024年4月16日～2025年4月14日）

受益者のみなさまへ

「ピクテ・バイオ医薬品マザーファンド」は、「ピクテ・バイオ医薬品ファンド（1年決算型）円コース」、「ピクテ・バイオ医薬品ファンド（毎月決算型）為替ヘッジなしコース」、「iTrustバイオ」、「ピクテ・バイオ医薬品ファンドⅡ（適格機関投資家専用）」および「ピクテ・バイオ医薬品ファンド（1年決算型）為替ヘッジなしコース」が投資対象とするマザーファンドで、信託財産の実質的な運用を行っております。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第25期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	世界主要市場のバイオ医薬品関連企業の株式に投資することにより、信託財産の積極的な成長を目指します。
主要投資対象	世界のバイオ医薬品関連企業の株式
主な投資制限	株式への投資割合…制限を設けません。 外貨建資産への投資割合…制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株組入比率	純資産額
	円	騰落率	期騰落	中率		
21期(2021年4月13日)	68,681	26.4	48,408	30.3	99.7	66,765
22期(2022年4月13日)	78,594	14.4	50,180	3.7	99.7	60,952
23期(2023年4月13日)	87,939	11.9	53,269	6.2	98.7	157,955
24期(2024年4月15日)	94,698	7.7	61,768	16.0	99.9	206,728
25期(2025年4月14日)	86,342	△8.8	53,732	△13.0	98.6	126,784

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算し、設定日(2000年4月14日)を10,000として指数化したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株組入比率
	円	騰落率	期騰落	中率	
(期首) 2024年4月15日	94,698	—	61,768	—	99.9
4月末	97,544	3.0	63,308	2.5	99.4
5月末	101,450	7.1	65,980	6.8	98.8
6月末	109,890	16.0	70,517	14.2	98.7
7月末	109,730	15.9	70,950	14.9	98.7
8月末	105,633	11.5	67,823	9.8	98.8
9月末	100,021	5.6	64,970	5.2	98.5
10月末	107,040	13.0	69,518	12.5	99.0
11月末	104,698	10.6	67,225	8.8	98.7
12月末	103,721	9.5	66,112	7.0	98.7
2025年1月末	106,578	12.5	67,390	9.1	97.1
2月末	102,631	8.4	64,023	3.7	98.8
3月末	99,231	4.8	62,100	0.5	98.6
(期末) 2025年4月14日	86,342	△8.8	53,732	△13.0	98.6

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数を委託者が円換算し、設定日(2000年4月14日)を10,000として指数化したものです。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、8.8%の下落となりました。



※参考指数は期首の基準価額に合わせて指数化しています。

◇主な変動要因

【当期末半】

- 上昇↑・組入れているギリアド・サイエンシズ（米国、バイオテクノロジー）やアムジェン（米国、バイオテクノロジー）などのバイオ医薬品関連企業の株価が上昇したこと
- 下落↓・円に対して米ドルが下落したこと

【当期末半】

- 下落↓・組入れているリジェネロン・ファーマシューティカルズ（米国、バイオテクノロジー）、モデルナ（米国、バイオテクノロジー）、バイオジェン（米国、バイオテクノロジー）などのバイオ医薬品関連企業の株価が下落したこと
- 下落↓・円に対して米ドルが下落したこと

投資環境

- ・バイオ医薬品関連株式市場は、期初から2024年5月末にかけては、主要中央銀行の利下げ観測が強まったことで米国などで長期金利が低下し、金利感応度が相対的に高い当該市場は堅調に推移しました。6月上旬から7月前半にかけては、米国の消費者物価指数（CPI）の伸びが鈍化し米連邦準備制度理事会（FRB）が早期に利下げを開始するとの見方が強まったことや、半導体・AI（人工知能）の発展拡大および企業業績の改善期待などを背景に世界の株式市場が堅調に推移する中で上昇しました。7月後半から8月前半にかけては、米政府による中国向け半導体輸出の規制強化、中国や欧州を中心に世界景気悪化の懸念が強まったことなどから大幅に下落しました。8月後半から9月中旬にかけては、FRBが事前予想より大幅な利下げを実施し

たことで景気に対する過度な懸念が後退したことなどから上昇しました。その後は、堅調な米経済指標を背景に景気減速懸念が後退したことがプラス要因となった一方、米国長期金利が上昇したことがマイナス要因としてより強く意識されたため、軟調に推移しました。2025年1月半ばにかけては、米国長期金利の上昇や、米国のトランプ次期政権下での薬価引き下げ圧力見通しなどが嫌気され、軟調に推移しました。1月後半から2月上旬にかけては、バイオ医薬品関連企業をターゲットとしたM&A（合併・買収）の増加期待や米国長期金利の低下などから反発しました。ただ、2月中旬以降は、トランプ米政権の通商政策の不透明感や、それに伴う対外関係の悪化、米国の景気減速への懸念などから、再度下落基調に転じました。さらに3月末から期末にかけては、トランプ米政権による医薬品への関税賦課に対する懸念が強まったことや、事前想定以上に厳しい相互関税の内容などから、世界経済に対する大打撃は不可避との見方が広がったことで、一段と大きく下落しました。一方で、相互関税の延期などを背景に急反発する場面もあるなど値動きの荒い展開となりました。

- ・ 為替市場は、期初から2024年7月上旬にかけては、日本銀行が6月の金融政策決定会合において国債買い入れ減額の具体策の決定を先延ばしたことで利上げ観測が後退し、日米金利差がすぐには縮小しないとの見方が強まったことなどから円安・米ドル高が進行しました。7月中旬から9月前半にかけては、米労働市場の減速懸念を背景にFRBの利下げ観測が強まったことなどから急速に円高・米ドル安が進行しました。その後はFRBが9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で事前予想より大幅な利下げを実施したものの、今後の大幅利下げの継続には消極的な姿勢を示したことや堅調な米経済指標などを受けて、円安・米ドル高が進みました。11月中旬にかけては、米国大統領選挙で関税強化などを主張するトランプ氏が当選し、米国のインフレに対する懸念が強まったこと、日本の政局不透明感から日本銀行が利上げに慎重になるとの見方が強まったことなどから、円安・米ドル高が進行しました。その後11月下旬には、FRBが利下げの継続方針を示したことや、日本銀行の追加利上げ観測などから一時円高・米ドル安となりましたが、12月上旬から2025年1月上旬にかけては、米国の堅調な経済指標やFRBの追加利下げペースの後退観測、日本銀行の追加利上げの後退観測などを背景に円安・米ドル高が進行しました。1月中旬以降は、日本銀行の利上げ決定に加えて、利上げ継続の見通しが強まったことや、米国の長期金利低下などを背景に、円高・米ドル安が進行しました。さらに2月半ば以降は、米通商政策の不透明感から市場のリスク選好が後退する中で円高・米ドル安傾向が続き、さらに期末にかけてはトランプ米政権が打ち出した相互関税が想定以上に厳しい内容であったことで、世界経済への大打撃は不可避との見方が強まり、リスク回避の動きが急速に強まったことで一段と円高・米ドル安が進みました。

組入状況

主に世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいりました。期末におけるESG（環境・社会・ガバナンス）を主要な要素として選定した銘柄の組入比率は、76.4%となりました。

当社および運用指図の権限の委託先におけるESGに関わる活動の詳細につきましては以下のリンク先をご覧ください。

<https://www.pictet.co.jp/featured/esg-portal.html>

◇国・地域別組入比率

【期首】

国・地域名	組入比率
米国	88.1%
英国	4.1%
フランス	3.3%
デンマーク	1.4%
中国	0.9%
スペイン	0.9%
スイス	0.7%
ドイツ	0.6%



【期末】

国・地域名	組入比率
米国	83.2%
英国	5.2%
フランス	3.7%
デンマーク	1.8%
中国	1.8%
オランダ	1.1%
スイス	1.0%
ドイツ	0.5%
スペイン	0.3%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◇業種別組入比率

【期首】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	78.9%
医薬品	14.7%
ライフサイエンス関連	5.6%
ヘルスケア・サービス	0.7%



【期末】

業種名	組入比率
バイオテクノロジー	76.4%
医薬品	17.9%
ライフサイエンス関連	2.6%
ヘルスケア・サービス	1.7%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
パーテックス・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	8.7%
リジェネロン・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	8.5%
ギリアド・ サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	7.5%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	7.4%
バイオジェン	米国	バイオテクノロジー	4.3%
モデルナ	米国	バイオテクノロジー	4.3%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	3.8%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	3.3%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.2%
イルミナ	米国	ライフサイエンス関連	2.6%



【期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
パーテックス・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	8.7%
ギリアド・ サイエンシズ	米国	バイオテクノロジー	8.6%
アムジェン	米国	バイオテクノロジー	8.2%
リジェネロン・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	6.5%
アストラゼネカ (ADR)	英国	医薬品	4.7%
サノフィ (ADR)	フランス	医薬品	3.7%
インサイト	米国	バイオテクノロジー	3.5%
アルナイラム・ ファーマシューティカルズ	米国	バイオテクノロジー	3.0%
ヴィアトリス	米国	医薬品	2.4%
ジャズ・ ファーマシューティカルズ	米国	医薬品	2.2%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

期末の組入上位銘柄は、

- バートックス・ファーマシューティカルズ : 治療法の限られた、または治療法のない疾患に向けた治療薬の発見・開発および商品化に注力。嚢胞性線維症治療薬のパイオニア。2012年に米食品医薬品局（FDA）から承認を受けたカリデコ以降、オルカンビ、シムデコ、トリカフタといった嚢胞性線維症（CF）治療薬を次々と上市することで、CF患者の生活の質を大きく改善し、更に治療や通院にかかる費用の削減にも貢献。このような革新的技術を有することで、同社は数十億ドル規模のCF市場で存在感を示し、利益を獲得している。
- ギリアド・サイエンシズ : HIVやC型肝炎など感染症治療薬の分野に強みを持つ。エイズ/HIV感染者の治療のパイオニアであり、患者が通常の生活を送れるレベルまで病気を抑制する治療薬を提供するだけでなく、感染しないための予防薬も提供。また、途上国などに向けて安価な治療薬も提供している。エイズ/HIV感染者治療におけるリーダーシップにより、患者や医師から多くの信頼を獲得している。
- アムジェン : 関節リウマチ、骨粗しょう症の治療薬や白血球生成促進剤などが主力のバイオ医薬品企業。バイオシミラー（バイオ後続品）にも取り組む。がん、骨粗しょう症、腎臓病、炎症など様々な疾患をターゲットとした医薬品の強力なポートフォリオを有しており、人々の健康で長生きする生活に貢献している。また経験豊富で大規模な研究開発チームを持ち、他のバイオテクノロジー企業や学術機関、政府機関との良好なパートナーシップを確立している。強力な医薬品ポートフォリオ、最高の研究開発能力、強力な製造およびサプライチェーン能力、そして確立されたブランドが、同社の成長維持に貢献している。
- リジェネロン・ファーマシューティカルズ : がん、眼病や慢性炎症などの治療薬の研究開発、商品化などを手掛けるバイオ医薬品メーカー。複数の疾患領域で治療に変革をもたらした非常に革新的な企業で、特に治療しなければ失明に至る可能性のある加齢黄斑変性症（AMD）の治療で大きな役割を果たしている。また、有効性の高い皮膚疾患の治療薬を有し、がん領域でも非常に有望なパイプライン（治療薬候補）の開発に取り組んでいる。同社の革新性の高さが、画期的な治療薬を生み出し、大きな市場の獲得につながることを繰り返し示してきた。
- アストラゼネカ（ADR） : がん、循環器・代謝疾患、呼吸器・炎症・自己免疫疾患などを中心に幅広い分野において医療用医薬品の創薬、開発、製造および販売を行う製薬会社大手。様々な治療領域に注力し多くの治療薬を提供し、人々の健康で長生きする生活に貢献。多くの治療薬を有しており特許失効のリスクプロファイルが穏やかで、さらにがん領域で高い将来性が期待されるパイプライン（治療薬候補）を有していることから、今後も二桁の利益成長の継続が期待される優良なディフェンシブ銘柄といえる。

などとなりました。

○今後の運用方針

(1) 投資環境

バイオ医薬品関連企業は、画期的な治療薬を提供し続けるものと予想され、相対的に高い利益成長が期待されます。また魅力的な新薬候補や高い技術力を求めて大手医薬品企業がバイオ医薬品関連企業を買収する動きは継続すると見られ、これは株価にとってプラス要因になると見えています。今後、薬価引き下げの動き、注目パイプラインの治験結果の発表、決算の内容、米国金利の動向などが株価に影響を与える可能性があり、注視が必要と考えます。

(2) 投資方針

世界のバイオ医薬品関連企業の株式に投資を行ってまいります。

○1万口当たりの費用明細

(2024年4月16日～2025年4月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 5 (5)	% 0.005 (0.005)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	5 (5)	0.005 (0.005)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	23 (17) (6)	0.022 (0.017) (0.006)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・その他は、信託事務の処理等に要する費用
合 計	33	0.032	
期中の平均基準価額は、104,013円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2024年4月16日～2025年4月14日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 101,643 (429)	千米ドル 359,040 (一)	百株 201,735	千米ドル 854,880
	香港	12,073	千香港ドル 165,171	3,109	千香港ドル 45,027

(注) 金額は受渡代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2024年4月16日～2025年4月14日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	189,880,269千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	185,670,506千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.02

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2024年4月16日～2025年4月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○特定資産の価格等の調査

(2024年4月16日～2025年4月14日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年4月14日現在)

外国株式

銘柄	株数	当 期 末				業 種 等
		株数	評 価 額		業 種 等	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円		
ACADIA PHARMACEUTICALS INC	6,393	4,182	6,098	873,487	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ADAPTIVE BIOTECHNOLOGIES	17,441	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
AGIOS PHARMACEUTICALS INC	4,940	2,992	7,990	1,144,450	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ALNYLAM PHARMACEUTICALS INC	1,715	1,100	26,156	3,746,444	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
AMGEN INC	3,726	2,542	72,722	10,416,074	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
AMICUS THERAPEUTICS INC	18,028	15,864	10,280	1,472,408	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
APELLIS PHARMACEUTICALS INC	1,750	3,052	5,928	849,083	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ARGENX SE - ADR	—	160	9,345	1,338,567	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ARROWHEAD PHARMACEUTICALS IN	—	2,738	3,228	462,388	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ASCENDIS PHARMA A/S - ADR	1,323	1,060	16,011	2,293,339	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ASTRAZENECA PLC-SPONS ADR	7,388	6,287	41,679	5,969,689	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
AXSOME THERAPEUTICS INC	780	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BEAM THERAPEUTICS INC	—	1,614	2,498	357,813	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BEIGENE LTD-ADR	821	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BIOCRYST PHARMACEUTICALS INC	—	5,852	3,991	571,667	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BIOMARIN PHARMACEUTICAL INC	2,868	2,103	11,951	1,711,799	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BIOGEN INC	2,954	1,319	15,194	2,176,356	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BIONTECH SE-ADR	916	489	4,721	676,242	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BLUEPRINT MEDICINES CORP	3,243	1,612	13,033	1,866,847	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
BRIDGEBIO PHARMA INC	4,222	2,829	9,593	1,374,073	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
CYTOKINETICS INC	1,248	884	3,417	489,495	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
DENALI THERAPEUTICS INC	—	3,246	4,122	590,459	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
DYNAVAX TECHNOLOGIES CORP	—	2,497	2,809	402,433	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
EDITAS MEDICINE INC	11,038	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
EXELIXIS INC	9,960	5,214	18,414	2,637,440	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
GILEAD SCIENCES INC	14,915	7,355	76,223	10,917,431	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
GRIFOLS SA-ADR	17,649	3,976	2,687	384,994	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
GUARDANT HEALTH INC	5,517	3,358	14,681	2,102,760	ヘルスケア機器・サービ	
HARMONY BIOSCIENCES HOLDINGS	—	1,447	4,221	604,655	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
ILLUMINA INC	2,761	1,331	9,956	1,426,102	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
IMMUNOCORE HOLDINGS PLC-ADR	733	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
INCYTE CORP	7,899	5,478	31,158	4,462,767	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
INSMED INC	—	1,485	10,184	1,458,735	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
IONIS PHARMACEUTICALS INC	7,846	5,942	16,578	2,374,552	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	8,737	8,933	2,948	422,244	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
LEGEND BIOTECH CORP-ADR	—	917	2,935	420,381	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
LIGAND PHARMACEUTICALS	611	696	7,259	1,039,731	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
MADRIGAL PHARMACEUTICALS INC	913	230	7,315	1,047,782	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
MEDPACE HOLDINGS INC	881	424	12,631	1,809,190	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
MODERNA INC	5,564	5,354	14,028	2,009,246	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
MYRIAD GENETICS INC	5,952	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
NEUROCRINE BIOSCIENCES INC	1,187	733	6,660	954,022	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
PTC THERAPEUTICS INC	3,981	2,681	11,526	1,650,910	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
REGENERON PHARMACEUTICALS	1,266	1,045	57,924	8,296,454	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
RHYTHM PHARMACEUTICALS INC	—	635	3,786	542,312	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SANOFI-ADR	9,553	6,395	32,936	4,717,556	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SAREPTA THERAPEUTICS INC	2,109	1,400	7,146	1,023,548	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SCHOLAR ROCK HOLDING CORP	—	790	2,212	316,864	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
SUMMIT THERAPEUTICS INC	—	7,712	17,923	2,567,216	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	

銘柄	株数	当 期 末			業 種 等
		株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
SUPERNUS PHARMACEUTICALS INC	4,867	5,327	16,870	2,416,431	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TARSUS PHARMACEUTICALS INC	—	791	3,672	526,074	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TRAVERE THERAPEUTICS INC	10,948	6,436	9,333	1,336,825	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TWIST BIOSCIENCE CORP	—	1,074	4,175	598,048	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ULTRAGENYX PHARMACEUTICAL IN	5,042	5,720	19,528	2,797,031	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
UNITED THERAPEUTICS CORP	504	254	7,164	1,026,133	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VAXCYTE INC	—	768	2,397	343,322	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VERONA PHARMA PLC - ADR	—	690	3,983	570,596	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VERTEX PHARMACEUTICALS INC	2,950	1,590	77,011	11,030,330	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VIATRIS INC	29,363	27,888	21,027	3,011,814	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ALKERMES PLC	12,679	3,808	10,283	1,472,888	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
JAZZ PHARMACEUTICALS PLC	2,567	1,976	19,864	2,845,167	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ROIVANT SCIENCES LTD	17,974	3,018	2,975	426,230	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ROYALTY PHARMA PLC- CL A	2,303	2,287	7,307	1,046,636	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
THERAVANCE BIOPHARMA INC	10,021	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CRISPR THERAPEUTICS AG	1,508	2,315	9,101	1,303,583	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
(アメリカ…非上場)					
CONTRA RADIUS HEALTH INC	4,757	4,757	0	0	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小 計	株数・金額 銘柄数<比率>	304,339 50	204,676 59	856,811 —	122,721,140 <96.8%>
(香港)			千香港ドル		
BEIGENE LTD	—	8,964	122,537	2,262,049	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小 計	株数・金額 銘柄数<比率>	— —	8,964 1	122,537 —	2,262,049 <1.8%>
合 計	株数・金額 銘柄数<比率>	304,339 50	213,640 60	— —	124,983,189 <98.6%>

(注) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率です。

(注) 株数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 一印は組入れがありません。

○投資信託財産の構成

(2025年4月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 124,983,190	% 98.4
コール・ローン等、その他	1,979,877	1.6
投資信託財産総額	126,963,067	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 当期末における外貨建純資産(126,271,875千円)の投資信託財産総額(126,963,067千円)に対する比率は99.5%です。

(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=143.23円、1香港ドル=18.46円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年4月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	126,963,067,057
コール・ローン等	1,633,112,833
株式(評価額)	124,983,190,020
未収入金	346,757,577
未収利息	6,627
(B) 負債	178,700,000
未払解約金	178,700,000
(C) 純資産総額(A-B)	126,784,367,057
元本	14,684,006,713
次期繰越損益金	112,100,360,344
(D) 受益権総口数	14,684,006,713口
1万口当たり基準価額(C/D)	86,342円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

(注) 期首元本額 21,830,263,238円

 期中追加設定元本額 367,760,680円

 期中一部解約元本額 7,514,017,205円

(注) 1口当たり純資産額 8,6342円

(注) 期末における元本の内訳

 ビクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなし 13,550,980,488円

 ビクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)為替ヘッジなし 853,148,722円

 ビクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース 181,754,405円

 iTrustバイオ 98,111,350円

 ビクテ・バイオ医薬品ファンドII(適格機関投資家専用) 11,748円

○損益の状況 (2024年4月16日~2025年4月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,834,779,984
受取配当金	1,569,594,188
受取利息	91,902,384
その他収益金	173,283,412
(B) 有価証券売買損益	△ 7,916,430,837
売買益	34,173,889,138
売買損	△ 42,090,319,975
(C) 保管費用等	△ 41,344,116
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 6,122,994,969
(E) 前期繰越損益金	184,897,819,498
(F) 追加信託差損益金	3,399,599,320
(G) 解約差損益金	△ 70,074,063,505
(H) 計(D+E+F+G)	112,100,360,344
次期繰越損益金(H)	112,100,360,344

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に対応するため運用報告書の記載箇所において所要の約款変更を行いました。